

「中泊町ふるさとイメージアップ大使」を任命しました

町が誕生して早5年が過ぎ去りました。町ではこの5年間、まちづくりの合い言葉である「大地の恵と海の幸 心ひとつに希望のまち」を体現すべく、さまざまなことを行ってきました。

町では、合併5周年の節目を迎えるにあたり、このたび町のイメージアップを図る大使の任命を企画しました。任命する方々は、町内外で幅広く活躍されている方で、その公演機会に、町のイメージアップ活動を行っていただきます。今年は、折しも青森まで新幹線がやってくる年です。町の誕生5周年を記念し、新たな飛躍の年にしたいという願いから、次のお三方を大使に任命します。

三上 寛

(昭和25年3月20日生 旧小泊村出身)

高校卒業後、警察学校、板前の見習い、新聞配達を経て昭和45年、東京渋谷の「ライブハウスステーション70」で歌い始めます。同46年、中村八大作曲の『馬鹿ぶし』でデビュー。第3回全日本フォーク・ジャンボリーに出演し、日本で最も過激な唄を歌うフォーク歌手として脚光を浴びます。

以後、CDアルバム、小説、随筆、作詞、作曲、詩集などを多数発表。シンガーソングライター(作詩・作曲と歌手を兼ねた人)のみならず、多方面での活躍が評価されている、芸能界有数のタレントです。

また、誰よりも小泊を愛する人で、故郷でのコンサート、小泊のテレビCM出演、東京での「ふるさと交流会」での演奏等に積極的に協力しており、町のイメージアップを図る大使としてふさわしい方です。



横山 ひでき

(昭和42年6月19日生 旧中里町出身)

青森県を主な拠点に活動するローカルタレントです。愛称は「ひでちゃん」。トラック運転手などさまざまな職業に就いた後、黒石八郎に弟子入りします。以前は師匠との出演が多かったですが、最近は単独での出演が中心となっています。青森県の放送番組のテレビ・ラジオのレポーターや出演のほか、各種イベントの司会として非常に活躍されている方で、弟子入りした黒石八郎氏の下で三味線と民謡の修行中でもあります。

また、旧中里町のときから、まつりや町民祭での司会、記憶に新しいところではもったいないフォーラムの司会など、特に司会業で町のイベント盛り上げに貢献。その語り口は軽妙で、誰からも愛される親しみやすさがあります。

このように、町への貢献やその明るい語り口などから見ても、町をPRする人材としてうってつけの方です。

木村 巖

(昭和39年5月3日生 旧中里町出身)

農業をする傍ら、「金多豆蔵人形一座」を主宰し、精力的に公演活動を行っています。現在の保持者である氏は、2代目木村幸八氏の弟重成氏の息子で、その技量が2代目木村幸八氏の目にとまり、平成6年(1994)に3代目の襲名を許されています。

昨年開場した津軽中里駅駅舎内の「金多豆蔵人形劇場」で月1回の公演を行っているほか、出張して各地で公演するなど、昨年の常設劇場開場以来、町のホットな観光資源として、町内外から非常に注目を集めています。

公演の内容は、酒呑みで失敗ばかりする「金多」と、おっちょこちょいだが情にもろい「豆蔵」が主役となって劇を繰り広げ、掛け合い漫才のほか、人形の手踊りなどさまざまな演目を持っており、津軽の風俗を取り入れた伝統芸能にふさわしい人形劇となっています。

昨年5月には、町教育委員会が無形民俗文化財として指定しました。

